

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム ございしょの里 1号棟

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 1号棟		
所在地	〒026-0301 岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	平成 22 年 8 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成 23年 1月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0371100413&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年9月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・活気あるグループホームを目指して、音楽療法や全体でのレクリエーションを取り入れ、他のユニットとの交流の場も増えてきている。各ユニットでも、日々のレクリエーションを取り入れたたり、事業所の敷地内を散歩する事も日課となり活動的に過ごされている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

居室に籠もることを避け、「人との関り、自然への関心」をケアに取り入れ、回復力につなげたい思いから、新たに共有空間を増設し、ゲームやカラオケなどを設置、中庭には仮設のベンチやテーブルを配し、地域住民と交流しながら野外食やカラオケを楽しむなど、利用者の外向き感情を引き出す環境づくりに努めている。地区行事などへも積極的に参加し、広報の閲覧なども通じながら、住民や行政からの理解や協力・支援が得られるよう、地域に根ざした運営を目指している。職員は、理念のキーワードを基に、ホームが掲げる「介護心得」「自立生活支援」の共通指針に照らしながら、常に利用者の目線で、本人が穏やかに自分らしく暮らしていけるよう、笑顔を絶やすことなく介護に当たっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム ございしよの里 1号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念を共有し実践につなげていると思う。 ミーティングで理念について職員全体で話し合い実践につなげている。	職員は、自らの介護技量に照らして、理念の「あかるく」とか「あたたかく」を指針とし、職員間で話し合いながら具現化に努めている。	理念 太陽の如く「あかるく あたたかく まろく」
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ホームの行事(納涼会、敬老会)に地域の方の協力が得られ交流している。又、事業所に近隣の中学生がボランティアで来てくれる等。	設置者の地域の方々や団体との長年の付き合いと信頼のもとで、地域の皆さんから様々な支援・協力を得ている。住民も「地域の施設」という意識で「自分たちでも関わられる、支えられる」ことには進んで協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所独自の取り組みは、していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、サービスの利用状況や 行事実施報告を行い、委員の皆様からアドバイスを頂いており、そこで頂いた意見を参考にしながらサービスに活かしております。	リンゴ狩りやぶどう狩りをしたい旨の提案をしたところ運営推進会議の積極的な協力、支援により実現するなど、運営推進会議メンバーの理解と協力、意見が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進委員の行政職員が色々相談して協力関係を築いております。	権利擁護や生活保護、街路灯設置など、様々の相談について関係部署との連携を密にしながら進めているほか、包括支援センターとの報告、連絡・相談も普段から行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中は、必ず職員が利用者の見守りを行っており、居室はもちろん玄関に鍵をかけていない。夜間のみ安全確保の為、施錠しています。管理室に連携のドアチャイムをセットし、職員が直ぐ対応できる体制をとっている。	身体拘束をしないという方針のもと、見守りを優先に介護しているが、ドアチャイムを一部活用している。なお、近隣住民や駐在所員との連絡・連携も確保されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全スタッフが、法律そのものを詳しく学ぶ機会はもてていないのが現状です。年1度ではありますが、内部研修を行い、虐待はあってはならない指導をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・事業所で地域福祉権利擁護を利用されている方が3名おります。しかし、全スタッフが専門的な外部研修を受けていないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結・解約については、サービスを利用する前に利用者及び利用者家族に対して、契約書及び重要事項説明書を用いて説明しております。その上で署名、捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・相談及び苦情受付窓口を設けている旨、重要事項説明書に記載しております。又、見やすい場所ということで玄関に「投書箱」を設置してあります。現状は苦情要望受付はありませんが、担当スタッフが敏速に対応する仕組みとなっております。	月1回程、利用者の健康や生活状況を手書通信で報告をしているが、それらの機会を利用し家族の意見等を聞くようにしている。しかし十分な対応といえないとし、今後は、家族アンケートなどで意見を表せるよう検討したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日ほんの少しでも話す機会を、作っている。	職員の意見は、毎朝のミーティング、月1回のモニタリング、職員会議等の機会を捉えて話し合い運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修を受講している。 ・内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会の定例会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービスを利用する本人からも意向を伺うように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス利用を希望されるご家族からも意向を伺うように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・利用者の基本情報、家族からの情報をサービスケアの参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・普段利用者、職員が楽しみ事を一緒に楽しむよう心がけております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族会を兼ねてホームの行事である敬老会等を開催し家族、職員、利用者と一緒に過ごす機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者の希望があれば随時、対応していきたい。	近くに利用者と馴染みの方がおり、時々立ち寄りしたり、差し入れをしていただいている。また、子供連れの親戚や家族の来訪のほか、中学校の運動会や地域行事等の参観が、馴染みの広がりにつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の助け合いと支え合いが出来るような支援を日常行っている。食事の際、同じテーブルを囲み、お互いが気持ちよくいられる雰囲気作りを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・現時点においては、契約終了後に、継続的な関わりを必要、希望する方はおりませんが、今後継続的な関わりを必要とする利用者、家族がいたら誠意をもって対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の介護の中で、利用者の話に耳を傾け、希望や意向の把握に努めている。	本人のいいところ、出来ているところ、その人らしさを見つけ、自信につながるよう働きかけているが、更にセンター方式を学びながら、個々の安心や誇りにつなげるような体制づくりをしていきたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・契約時、本人や家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引継時口頭で状況報告の上で申送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画は、家族・本人の希望や意見を取り入れて作成している。	ケアプランは個々の具体的な事例や申し送り事項などの記録を基にケアマネが原案を作成し、更に職員の気づきや意見を取り入れて作成している。なお、見直しの時期や期間が明示され、適切な時期に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録・生活記録・申し送りノートに記録し、引継時口頭で状況報告の上で申送る。(職員間の情報交換、現状の把握)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・グループホーム内でのデイサービス、ショートステイは、実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的には、家族同行をお願いしています。但し、緊急時については、家族の希望を優先させ職員が、同行支援する事がある。	医療受診が必要なときは、家族に通院介助をお願いしているほか、治療結果を家族から聞くなどして状況を把握している。なお、緊急等のときは職員が付添い支援するほか、ボランティアの協力を得る場合もあるとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同敷地内にあるデイサービスセンター勤務の常勤看護師に相談し助言をしてもらいながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院が必要になった時は、その利用者の経過記録を報告する事や、普段の様子(介護サマリー)を詳しく伝えるようにしている。早期退院計画は、していない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・異変時は、かかりつけ医に連絡、受診し医師の判断をあおぐようにしています。	事業所の方針として可能な限り自宅復帰を目指し、終末期等のケアはしないことを説明し理解を得ている。これまで自宅復帰した方の例があるが、重度化等での退所事例はない。重度化等になった場合は医師と相談し対応の在り方の判断を仰ぐとしている。	利用者の機能低下により見当識障害や認知障害からくる様々の事態が予測され、その中で特に独居者等の重度化等の問題について、今後に備え研究する必要があるものとする。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルがあり、職員がいつも閲覧できる場所に置いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練は、年2回行っている。	災害時の近隣住民の応援体制が確保されている。職員は自動警報機、消火器操作を熟知しているほか、避難経路への点検を日常化している。なお、現在、スプリンクラー設置や避難路の工事中で年内完成を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーや誇りに配慮し、言葉使いについては気をつけている。言葉使いや対応については、職員間で声掛けあって直すよう取り組んでおります。内部研修を行っている。	排泄の確認や誘導、介助や尿意、失禁の対応等は、人目に気遣いながら対応し、プライバシーや羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・方言を使用し、入居者とゆっくり会話している。 ・服装、食事等で利用者に対して、見守りの中で自由にさせて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来るだけ多くの利用者の希望が実現できるように、その都度、意向を伺っておりますが、その希望全てに応えきれない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・基本的に入居者の希望に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者の希望メニューを聞いたり、後片付けを一緒に行っている、	各利用者の健康状態に合わせた献立に配慮しているほか、季節感や昔懐かしい料理、誕生会、節句等の機会に合わせた楽しいメニューとしている。時には中庭に仮設テーブルを設けバーベキュー等による”食事を楽しむ”ことに工夫が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・身体状況や咀嚼能力に応じた献立に努め、定期的に栄養士に指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・声掛け誘導で、行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・便、尿の回数チェックを行っています。声掛けで良い方、見守りが必要な方それぞれに合わせた、排泄支援を実施しています。	排泄の自立支援を最優先課題として取り組み、排泄の困難や失敗の軽減が本人の意欲や喜びにもつながり、尿意のサインを告げられる方も多く、夜間排泄への誘導タイミングにも大きな成果として活かされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘予防のために、植物繊維、水分、乳製品を多く摂れる様な工夫や他に、適度な運動をしてもらう様支援しています。排泄チェック表を活用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・基本的には、入居者の自由に希望がない時は、3日に一回にしています。入浴中は、楽しく気持ちよく過ごして頂ける様に会話を多くし、発言を引き出せる様に心がけている。	ラジウム鉱石を使用し、ラドンとトロンとの相乗効果を備えた入浴法を取り入れ、また入浴槽や浴室の拡張整備を図り、入浴の楽しみ、快適さにつなげる支援をしている。入浴は利用者の希望に応じ随時支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居時タンスや布団は、普段から使い慣れている物が良いと伝え持ち込んでもらっている。又、就寝時間や昼寝時間は決まっておらず、利用者のペースに任せている、体調、精神、身体状況をみながら状況判断し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医師の指示通り服薬を実行し(ホーム管理)変化に注意を払っている。服薬リストを介護日誌にセットし、職員全員が目をとおす様指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・休憩室で歌を唄う入居者、天気の良い日は中庭で踊りを踊る入居者、ぬり絵をする入居者それぞれ好きなものをしてもらっている。得意分野で、力を発揮してもらえる様、お願いできる仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は、希望により日常的に、散歩(施設中庭)に行ったり概月/1回はバスハイクに出かけている。(桜見物、釜石大観音、紅葉見物等)	日常は、近くの小中学校や海岸通りへの散歩や敷地内の外回り(自作の畑、中庭)を散策しながら利用者の満足感や達成感につなげている。なお、故郷訪問や盆正月の外出・外泊の支援が、帰宅復帰につながった事例もあることから継続したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居者の預り金は、施設で管理している。入居者が、希望する時は、職員が同行する等対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族から年賀状が届いており、手紙を出したいという入居者はおりませんが、家族に電話をかけたいと言う入居者には、職員がついて支援する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有の空間は清潔第一に考えています。その上で、快適に過ごしていただける様、花を飾ったり、季節ごとの飾り付けを行い、その雰囲気を楽しんでいる。	体を休める畳の小上がりや空間にはソファ、椅子などが置かれ居心地よく過ごせる環境にある。また、ユニットの交流できる共用空間も増設され、カラオケやゲーム、食事を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・談話室、2階の廊下に椅子を用意し思い思い過ごす場所は、確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、居室は自分の家と同じに考え、利用者に今まで使用していた物を出来る限り使用する様進め利用者の好みに任せている。	居室には、透明な収納ケースが置かれ、洗濯物や持物を何処に仕舞ったか中身が分かり困惑や混乱を避け自力で処理できるようにしていることで安心感や達成感に繋がるよう配慮している。また、使い慣れた生活用品の持ち込みもあり、居心地よく過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、階段、トイレなどすべて歩行できる場所は、手すりを設置し・浴槽には、入居者に合わせて使用できるよう(浴槽内・外)に、椅子を設置しています。又、廊下には、一休みできる場所を設ける等の工夫をしている。		